

## 2021年度 小委員会活動成果報告

(2022年2月13日作成)

小委員会名	建築保全標準対象拡大検討小委員会	主 査 名：野口貴文 就任年月：2020年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (改修工事運営委員会)	委員長名：橘高義典 主 査 名：本橋健司
設 置 期 間	2020年4月 ～ 2022年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>木造建築物および鉄骨造建築物について、保守点検、調査診断、補修設計、補修工事に関わる標準仕様書および規準の制定の方向性・フレームワークについて検討する。また、経年劣化以外によって損傷を受けた建築物の補修・改修に関して、標準仕様書・規準の制定の必要性について検討する。</p> <p>初年度：鉄骨造・木造各分野での関連研究・診断方法の整理、合同会議での目次構成の調整</p> <p>2年度：合同会議での目次構成の精査、執筆者リストの作成</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：野口貴文(東京大学) 幹事：伊山潤(東京大学) 委員：青木謙治(東京大学)、石山央樹(大阪市立大学)、五十田博(京都大学)、伊藤拓海(東京理科大学)、鹿毛忠継(建築研究所)、兼松学(東京理科大学)、河端昌也(横浜国立大学)、興石直幸(早稲田大学)、近藤照夫(ものつくり大学)、澤田樹一郎(島根大学)、中島正夫(関東学院大学)、藤田香織(東京大学)</p>	
設置WG (WG名:目的)	<p><b>建築保全標準・鉄骨造WG</b>：鉄骨造の構造部材に対する保守点検、調査診断、補修設計、補修工事に関わる標準仕様書・規準制定の方向性・フレームワーク検討</p> <p><b>建築保全標準・木造WG</b>：木造の構造部材に対する保守点検、調査診断、補修設計、補修工事に関わる標準仕様書・規準制定の方向性・フレームワーク検討</p>	
2021年度予算	400,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5回(合同WG含む、年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 当初は、2021年2月に刊行された鉄筋コンクリート造建築物の保全標準に倣って、木造建築物および鉄骨造建築物についても同様の保全標準の構成(①保守点検、②調査診断、③補修設計、④補修工事)および各標準仕様書・規準の目次構成に関する議論が進み、執筆担当者を定めて、2022年度から執筆作業が進むものと考えられていたが、木造建築物および鉄骨造建築物においては、鉄筋コンクリート造建築物とは耐久性・耐用性確保の方針、保全に関わる研究者・技術者の属性、および保全業界の体制が大きく異なることから、その実態を把握する必要性を認識したため、2021年度は保全の実態に対する業界へのヒアリングを主要な活動内容とした。その結果、戸建住宅に関しては、メーカーと工務店とで保全に対する関わり方が大きく異なることがわかった。また、鉄骨造建築物については、住宅・ビル・倉庫など多様な種類があり、それぞれで保全のあり方が異なっていることが推察された。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 保全の実態が見えてきた中で、日本建築学会として、あるべき保全の姿をどのような形で示すべきかについて、集中審議して方針決定を早急に行う必要がある。</p>